

出題傾向

大問三題で、大問㉑が2000字程度の「随筆文の読解問題」、大問㉒が2000字程度の「評論文の読解問題」、大問㉓が「語彙問題」という構成である。大問㉑と大問㉒はそれぞれ10問、大問㉓は7問の小問があり、すべて5肢択一式の選択問題である。問題文が比較的短く読みやすいものであることや、設問が基本的なものであることから、全体的にはやや易しいレベルである。基本的な国語力がきちんと身につけているかどうかを測ることに主眼をおいた出題傾向である。大問ごとの特徴は以下の通り。

大問㉑は、米原万里『ガセネッタ&シモネッタ』からの問題文であり、「『美しい言葉』や『醜い言葉』を前提とした日本語論」について疑問を提起していく文章である。文体は話し言葉に近く、非常に読みやすい。28年度の大問㉑の文章のテーマは「生命論」だった。「漢字の熟語を完成させる」「適切な接続語を補充する」などの空欄補充、傍線部の「理由説明」「内容説明」を中心とした読解問題となっている。選択肢は語句や短文であるのが特徴である。「特殊な漢字の読み」「外来語（カタカナ語）の意味を問う」「伝統芸能に関する文学史的知識を問う」「表現技法を問う」などの知識問題も出題されている。

大問㉒は、原研哉『日本のデザイン』からの問題文であり、「『複雑さを力の表象としていた時代』から『合理主義的なシンブルさに価値を置く時代』への移り変わり」について分析した「近代文明論」である。文体は硬質な論文体。28年度の大問㉒のテーマは「家族論」だったので、現代社会において重要なテーマであれば幅広い分野から出題されると予想される。「慣用句」「文章」の空欄補充、傍線部の「理由説明」「内容説明」、本文全体での「要旨把握」「文章に表題をつける問題」など読解問題が中心となっている。「文章表現に関する問題」「漢字の書き取り問題」など知識問題も出題されている。28年度は「段落の役割を問う問題」や「文章構成に関する問題」なども出題されていたので、設問のヴァリエーションは多い。

大問㉓は、「漢字の読み・書き取り」「漢字熟語の正しい用法」「同義語・対義語の関係」「敬語の正しい使い方」を問う語彙問題からなる。ほとんどの設問が「適切でない」ものを選ぶ形式であることが特徴として挙げられる。28年度は「文を論理に即して並べ替える問題」「外来語の意味・用法」なども出題されていた。

学習アドバイス

まずは「知識問題」対策である。大問㉑だけでなく、大問㉒や大問㉓の中でも「語彙力を問う問題」「国語常識を問う問題」がある。

- ①「漢字と重要語句に関する問題集」を1冊くりかえし学習しよう。語彙力がついてくれば、「文章の読解力」もUPするので一石二鳥だ。「評論」を読みこなすためには「抽象語」「観念語」「同義語・対義語」の知識を増やす必要があり、漢字の熟語だけでなくカタカナ語（外来語）の知識も重要である（大問㉑で語彙問題として問われている）。
- ②「敬語」「表現技法」「文学史」などの「国語常識」についても問われているので、国語便覧や問題集を使って正しい用法を理解しておくこと。

次に「読解問題」対策としては、「評論・随筆問題」が中心となった問題集を使おう。難易度は基本レベルが良い。

- ①「課題文の段落ごとの要点箇所に印をつける」→「課題文全体を150字前後に要約する」という訓練で「読解力」をUPさせることができる。指導者に添削してもらうこと。
- ②「解答力」UPのためには、「傍線部や空欄の前後の文脈で『言い換え関係』『対比関係』『因果関係』などの論理を見つける」→「課題文中に見つけた『論理』に合致する選択肢を選ぶ」というパターンに慣れること。そういった「基本的論理」の読解力を試すというところに出題意図があると考えられるからだ。